

富山地区FAC協議会が設立

会長に伊藤始教授、初会合開く

富山県立大学と関係官公庁、富山県生コンクリート工業組合、北陸電力による産学官連携の「富山地区(富山市・上市町・立山町)におけるフライアッシュコンクリート(FAC)の利用促進協議会」(富山地区FAC協議会)が設立し、7月30日に富山市の北陸電力本店で、第1回目の会合が開かれた。



伊藤 始会長

北陸地方では、11年1月に産学官連携委員会「北陸地方におけるコンクリートへのフライアッシュの有効利用促進検討委員会」(委員長・鳥居和之金沢大学名誉教授)が設置。以来10年間、公共工事で試行的にFACが利用されてきた結果、利用量が年々増加し、20年度は年約4万立方メートルの打設量となった。

FACは、アルカリシリカ反応(ASR)の抑制効果や温度上昇低減による収縮ひび割れ低減効果などの耐久性向上効果に優れ、構造物の長寿命

化に有効。また、使用するフライアッシュは、北陸の石炭火力発電所で産出する副産物であり、FACの使用は、建設資材の地産地消による環境負荷低減の効果も期待できるメリットがある。

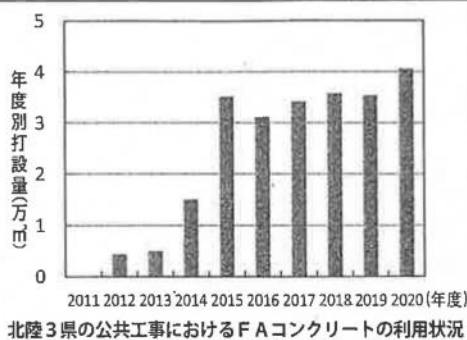
一方、国と県の標準仕様は、高炉セメント(B)を使用したコンクリートとしており、各地区の生コンクリート協同組合が設定するFACコンクリートの価格が、BBコンクリートよりも高いことが利用の伸びない要因の一つだった。

このような中、富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科の伊藤始教授(FAC委員会)の招集により、官公庁を中心に関係者が一体となつて、FACの利用促進を話し合う協議会を設けることになった。

委員紹介後、FACの利用に関する背景とこれまでの経緯を事務局が説明。続いて、FACの利用方針・方策を協議した結果、コンクリート構造物の長寿命化の観点から、富山地区において、FACの利用促進を図ることを申し合わせた。

今後、富山地区の公共土木工事で概ね活用されれば、年約8万立方メートルの利用に達する見込み。協議会の構成委員(事務局は北陸電力)。

【官公庁】北陸地方整備局富山河川国道事務所
副所長、県土木部長、県農林水産部次長、富山市建設部長、上市町建設課長、立山町建設課長【産業界】富山県生コンクリート工業組合理事長、北陸電力土木建築部長



構造物長寿命化の一助へ

会合ではまず、会長を務める伊藤教授が、「本協議会の活動により、フライアッシュコンクリートの利用促進が図られることで、富山県内のコンクリート構造物のひび割れ低減や長寿命化への一助になると考えている」とあいさつ。